



岩手山浄水場は、滝沢村の顔である岩手山の馬返し登山口に向かう村道の途中に位置しており、平成22、23年度の2カ年をかけて工事を実施し、24年度の試運転を経て同年12月より本格的に稼動しています。

浄水場施設の内訳は、浄水池（有効容量750m³）、滅菌及び動力等の電気室、及び2つの深井戸から構成されています。水源である深井戸は、深さ地下100mほどで、被圧地下水（難透水層に挟まれた滞水層からの水）を原水とし、水量は一日当たり

浄水場—ユース！

岩手山浄水場からの送水を開始しました。

3000m³をポンプにより汲み上げることが可能になっています。

水質は、良好で水温約10度前後と冷たく、安全かつおいしい水となっており、最小限の滅菌処理で皆様に供給することができます。

この水は、柳沢低区配水池及び高区配水池を経由して柳沢低区浄水場に送水しており、それぞれの施設の配水区域である川前、巣子、元村北部地区に供給されています。

滝沢浄水場の中央監視制御システムを更新しました。



滝沢浄水場は、村の水道施設の中でも最も古い施設であり、かつ、村内各所にある水道施設を集中的に監視制御する中核施設としての位置付けになっています。

今回の更



小学生が見学に訪れました。



新は、水道施設の増加や監視制御システムの老朽化（平成4年導入）に対応するため、平成23、24年度の2カ年にわたりシステムの更新工事を実施しました。その結果、水質等の監視体制が一層強化され、安全な水道水の安定供給と水運用の効率化を図ることができました。また、同じく24年度には、滝沢浄水場の浄水機能強化のため、ろ過池の改修工事を実施しました。

6月25日(火)に鵜飼小学校4年生のみなさんが滝沢浄水場に見学に訪れました。見学では、昨年度から稼働している中央監視制御システムや浄水施設（沈殿池等）の説明を受け、いつも飲んでいる水道水について熱心な様子で学習していました。